

国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）2021
（改定版）

令和8年3月

国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）2021（以下、「インフラ長寿命化計画2021」という。）において、「高専5か年計画終了時の令和7年度には、達成度等を確認・検証し、計画の更新・改定を実施し、継続的な取組を実施する。」とされていたことから、以下の部分について改定する。

【改定箇所】 ※「PO」は、インフラ長寿命化計画2021のページ番号を指す

- VI. 国立高専機構インフラ長寿命化計画における中長期的な所要経費の試算
 - 1. 大規模改修と改築時期の設定（P9）

- VII. 各国立高専における個別施設計画策定の手順（P13～14）

【改定内容】

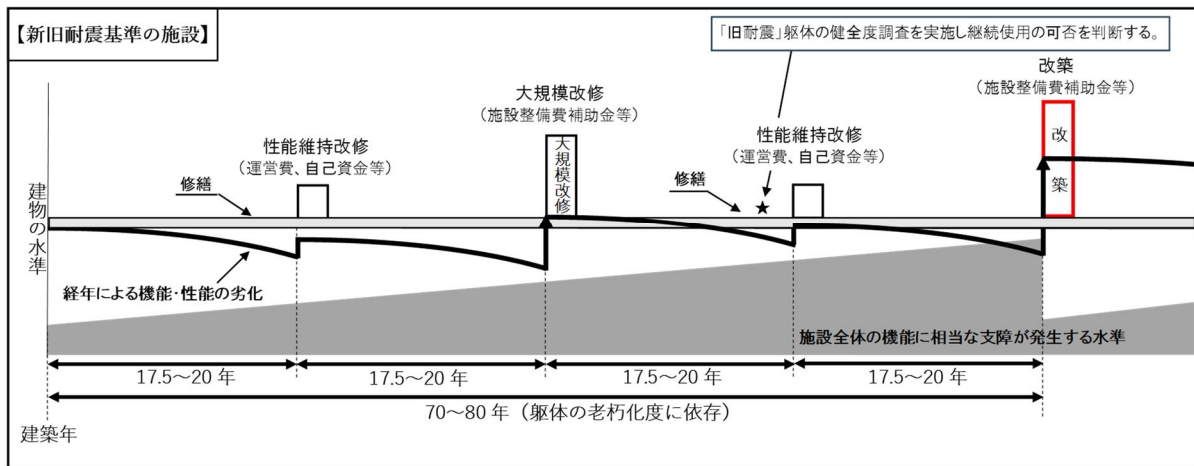
次ページ以降のとおり

VI. 国立高専機構インフラ長寿命化計画における中長期的な所要経費の試算

1. 大規模改修と改築時期の設定

目標耐用年数を文部科学省の基本的なライフサイクルの考え方を参考に設定する。

- ・新旧耐震基準の施設：性能維持改修経年 20 年・60 年、大規模改修経年 40 年、改築経年 80 年
- ・旧耐震基準の施設は、経年 60 年の性能維持改修前に躯体の健全度調査を実施し継続使用の可否を判断（計画上は改築経年 80 年とする。）



図表 7 国立高専機構個別施設計画における施設の大規模改修と改築時期

Ⅶ. 各国立高専における個別施設計画（高専別個別施設計画）策定の手順

国立高専機構が各年度の実施予定事業を選定するためには、各国立高専における個別施設計画（高専別個別施設計画）の策定が必要である。

※作成は 500 m²以上の建物とする。

※旧手順では、国立高専機構本部にて優先度による調整を行っていたが、本手順では優先度を含めて各国立高専で調整するものとする。

①建築年によるライフサイクルの設定

国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画におけるライフサイクルに基づき、各施設の改修（性能維持、大規模等）周期を設定する。

※国立高専機構本部にて設定（入力）済み

②改修履歴によるライフサイクルの調整

ライフサイクルは①を基本としつつ、改修履歴を踏まえ時期の調整を行う。また、大規模改修時には、40年目の性能維持改修（防水、外壁、空調）が含まれることを念頭にタイミングを合わせること。（耐用年数を超えて、施設整備費補助金以外で整備したものは大規模改修時に整備可能としている。）

③優先度による調整

②で調整したライフサイクルについて、単年度に重複又は短期間に集中する場合には、平準化を図るために下記の優先度により時期の調整を行う。

1. 建物種別、教育の特色による優先度【V.1】
2. 施設の劣化状況による優先度（劣化度調査）【V.1】

④高専全体の平準化

各高専の結果を踏まえ、国立高専機構本部にて平準化を行う。

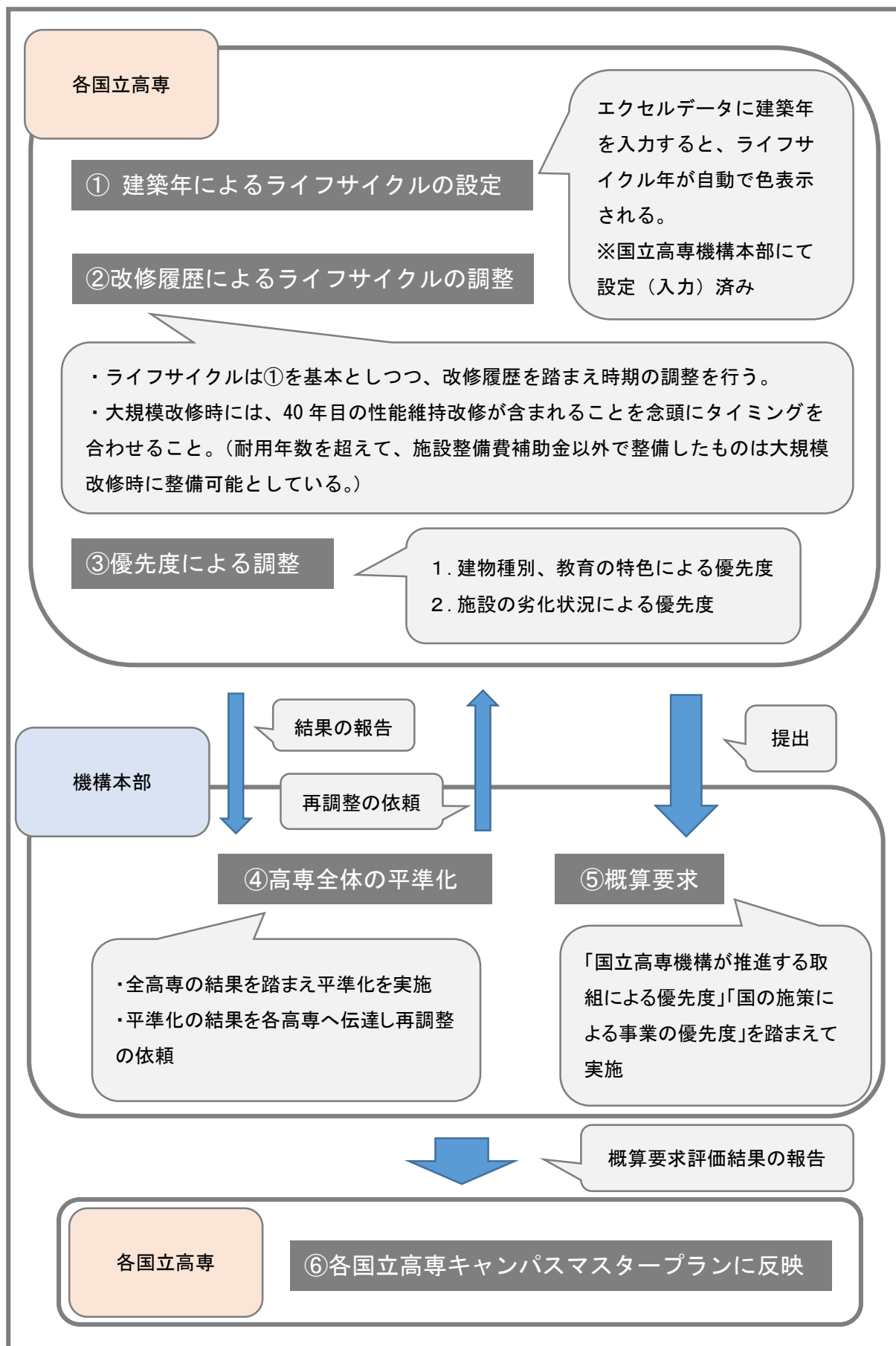
⑤概算要求

上記により策定された高専別個別施設計画を基に、「国立高専機構が推進する取組による優先度【V.2】」と「国の施策による事業の優先度【V.3】」を踏まえて、国立高専機構本部が概算要求を行う。

⑥各国立高専キャンパスマスタープランに反映

概算要求の評価結果に基づき、各国立高専キャンパスマスタープランの整備計画等に反映を行う。

上記内容について、各国立高専と機構本部の役割を図表 11「各国立高専における個別施設計画策定（高専別個別施設計画）のフロー図」に示す。



図表 11 各国立高専における個別施設計画（高専別個別施設計画）策定のフロー図